

令和6年度 全国学力学習状況調査<数学>

朝来中学校

I 【教科に関する調査】から

(1) 全体的な概要

- ・すべての問題で全国の平均を下回る結果となった。
- ・全国平均よりは下だが、5-6(1)、8-3)は多くの生徒が理解できている。
- ・7-1)、8-1)、8-2)は全国平均を大きく下回っている。
- ・記述式の問題の正答率が低い。
- ・多くの生徒が、数学の勉強は大切だと思っており、分からない問題も最後まで諦めずに解こうとしている。

(2) おおむね満足のできる内容

- ・問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができる。
- ・簡単な場合について、確率を求めることができる。
- ・グラフの傾きや回転の意味を事象に即して解釈することができる。

(3) 課題

- ・文字式を利用して、その事柄が成り立つ理由を数学的に説明する力。
- ・与えられたデータから最頻値を読み取る力
- ・データを箱ひげ図にまとめたものから分布の傾向を数学的な表現を用いて説明する力。
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する力。
- ・三角形の合同の証明と角度に着目したときの新たな性質を見いだす力。

(4) 指導改善のポイント

本学年は、小学校の算数の学習から困難さを抱えている人が多くいる。また、逆に理解力がありこつこつ努力を継続させることができる生徒もいる。そのため、学力面においては上位層と下位層の二つの山になる分布となる。そんな中でも数学的に説明する問題や、図形の証明問題でも最後まで諦めずに書こうとする生徒は多い。

授業では、ペア学習や話し合い学習などで上位層と下位層の生徒をうまく関わらせながら学習を進めていきたい。

○知識や技能の向上において

- ・数学的用語についての意味や性質を理解できていない生徒もおり、問題文が読み取れていない。授業の中では、問題文を読み進めるときの手順を示し、手順1から順に確認しながら要点をまとめていけるように工夫する。各自解いた後は、ペアやグループで教え合いながら最終確認と振り返りを行う。
- ・基礎的・基本的計算等の問題の定着に向けては、毎日の宿題の中で繰り返し練習していくとともに、2学期後半から3学期にかけては図形とデータの活用になるため、意識的に授業の最初などに1・2学期の計算復習を入れていく。

○思考・判断・表現の向上に向けて

- ・数学的説明や図形の証明などは、生徒が苦手としている。基本的な書き方手順を具体的に示し、虫食い問題などから段階的に進め、最終的に自分で理論的に展開できるようにスモールステップで指導に当たる。
- ・練習問題に取り組む時間をできるだけ確保し、ペアやグループによる教え合い学習の時間を作ることで、生徒たちの学びあいから主体的な学びへとつなげていきたい。